

スモールステップからはじめる

# 学校給食での 地場産物等 活用のための ガイドブック



令和7年9月

## 本ガイドブックの策定に寄せて

学校給食を通じて、地場産物等を食育の「生きた教材」として活用することは、子供たちが、食の背景にある生産者や自然の恵みに感謝する心を育む上で、大変重要です。その実現には、学校だけでなく、生産者や給食関係者等の協力が欠かせません。

しかしながら、地場産物等の活用にあたっては、推進体制や生産・供給体制、使用条件など、様々な課題があります。生産者や給食関係者の皆様は、多くのご負担やご苦労の中でご尽力されていますが、十分に取組が進んでいない地域もあるのが現状です。

そのような中で、「子供たちのために」という共通の目的の下、無理のない範囲で対話と調整を重ねながら、地域ごとにできることから一歩ずつ、スモールステップで取り組んでいただくことが重要と考えます。

本ガイドブックは、学校給食における地場産物等の活用に関する課題とその対応策を、先進的な事例とともに整理しています。給食調理方式や調理食数を示しながら、課題とその対応策を一覧化した実践的なガイドです。全国どの地域でも活用できるよう、具体的な取組内容やその成果も掲載しています。皆様の、地域における地場産物等の活用や食育の更なる推進に向けた一歩となることを、心より願っております。

女子栄養大学栄養学部准教授 中西明美



## はじめに

学校給食は食育の「生きた教材」と言われます。すなわち、学校給食は、単なる「食事の提供」ではなく、実際の給食という体験・活動を通じて子供たちが「食育」を実践的に学ぶための貴重な機会なのです。今から20年前に制定された食育基本法(平成17年法律第63号)の趣旨を踏まえ、平成20年に改正された学校給食法(昭和29年法律第160号)に規定されているとおり、学校給食では、日頃の適切な栄養摂取を図り、また、給食を通して食事についての正しい理解を深め、望ましい食習慣を養うことのみならず、食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、食に関わる人々の様々な活動に支えられていることや、地域の優れた伝統的な食文化や、食料の生産・流通・消費の過程について学ぶことが求められています。そして、こうした目標を達成するために、地域の産物を学校給食に使って、食の学びとして活用することなどにより、食に関する感謝の念や理解が深まるよう配慮する旨規定されています。

このように、学校給食における地場産物の活用は、子供の食に対する関心を深めるのみならず、地域の農林水産物に愛着を持ち、積極的に食べるようになったり、使ってみようといった意識を持つようになるなど、地域の農林水産業を支えることにつながります。生産者にとっても、安定して買い取ってもらうことは地域農業・経済の振興につながり、また、子供たちに知ってもらうことで将来の地域農業の担い手の育成にもつながります。さらに、地場産物を使うと輸送距離が短くなったり、有機農産物を使うと生態系のバランスを守ることになり、地場産物等(有機農産物を含む。以下同じ。)の活用は、環境負荷の低減、ひいては持続可能な農業の実現にもつながるなどのメリットがあります。

こうした背景を踏まえ、学校では、校長の下、栄養教諭や学校栄養職員が主導的な立場で、他の教師や地域の生産者等と連携しながら、学校給食における地場産物等の活用、また、それを使った食の学びの提供が必要とされています。学校給食における地場産物等の活用には、衛生管理はもとより、規格や時間的制約といった課題や、農産物の安定的な生産・供給に係る課題など、様々な課題がありますが、そうした課題の解決に当たっては、教育関係者・農林漁業関係者双方の協力なくしては進めることが難しく、それゆえに、地域において、それらの課題に対してどのように工夫しながら取り組んでいくかを考え、対応していくことが重要です。実際に全国の先進地でも、地域の関係者が頭をひねりながら、様々な苦労を乗り越え取り組んでいます。

本ガイドブックでは、全国の先進地での取組を参考に、学校給食における地場産物等の活用のポイントをまとめるとともに、具体的に何から取組を始めればよいか、スモールステップから始められるよう整理しています。

加えて、上述のとおり、子供たちへの食育の推進という観点からは、給食の時間のみならず、各教科等の学習においても、食や農の学びを提供することが重要です。そのためには、地域の方々が一緒になってその学びを確保するためにどうすればよいかを考える必要があり、むしろそれは地域の大人の責務とも言えます。そこで、各事例の紹介に当たっては、学校給食における地場産物等の活用の取組のみならず、給食や授業の時間を使って、どのように食や農の学びを生きた学びとして提供しているかも記載しています。

本ガイドブックが、地場産物等を使いたいけれども、まだ取り組めていない学校の先生方や、さらに工夫して、もっと地場産物等を使いたいと考えている生産者の方などの取組の一助となればと思います。